

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170201691		
法人名	株式会社 マシメディカルサービス		
事業所名	グループホーム ラポール北原台		
所在地	埼玉県川口市北原台1-6-1		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年 11月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvoCd=1170201691-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 27年 10月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・系列の益子病院との連携により、緊急時等の医療面での体制がしっかりととれている。 ・埼玉福祉専門学校・浦和大学短期大学部の実習生を受け入れ、介護職の人材育成とご利用者の生活の活性化を図っている。 ・1年に1回、日帰りの全体旅行を、ご家族様と一緒にやっている。 ・年間行事として「餅つき大会」「夏(秋)祭り」「花火大会」「クリスマス会」等を行い地域や町会の方、他事業所にも声をかけ、参加していただいている。 ・川口市介護相談員派遣を受け入れ、助言や情報提供をいただき、意見交換を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、春のお花見、日帰り旅行に始まり、地域の夏祭り、事業所の秋祭りなど一年を通して外出の機会や行事がとて多。秋祭りでは、太鼓、フリーマーケット等、地域の住民、ボランティアの協力を得て交流を深めており、利用者と地域の人々が一緒に楽しめる日となっている。貸切バスで出かける日帰り旅行は、家族も一緒に参加でき、これも利用者、家族が毎年楽しみにしているサービスの1つである。これらは家族、利用者の声をサービスに反映させたものであり、利用者、家族の希望の聞き取り方には、お茶飲み会開催等の工夫がみられる。医療面に関しては、同法人のクリニックと連携体制が整っており、夜間や緊急時でも必要な医療を受けることができ、安心である。また、現在、専門家による研修で学んできたことを検討しながら、大規模地震に向けての対策を強化している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの基本方針を策定し、基本方針に沿って年間のケア計画を立て、実行している。	事業所理念を玄関、フロアに掲示し、職員は日々各自で確認している。新人職員には、必ず事業所理念を説明し、理解してからケアにあたっている。	事業所理念の内容理解を深める方法を現在検討している。改めて皆で振り返る時間を作ることで職員の意識が高まり、サービスの質が更に向上することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭(秋祭り)を年1回開催し、施設を開放している。納涼祭(秋祭り)の時に、ビンゴ大会や盆踊りなど入居者様と地域の方が一緒に参加して頂ける場を設けている。	自治会に加入している。事業所で開催する秋祭りは、地域団体の太鼓披露やビンゴ大会、フリーマーケット等が行われ、地域の方々とにぎやかに過ごす日となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事(餅つき大会・花火大会・そーめん流し)と一緒に参加していただき、施設での生活状況を見て理解をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催し、入居者様及び、ご家族や、民生委員の方など意見を参考に日々のケアに反映されるよう努めている。	会議は、食事会、クリスマス会と同日開催する日も設定し、事業所内の様子を実際に見た上での意見交換も実施している。毎年恒例の日帰り旅行について家族と話し合いをし、意見を取り入れた計画を作成した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に戸塚地域包括支援センターが出席され、事業所の実情やケアについて報告している。介護保険課には相談や助言をいただいている。	川口市は、担当制で市、地域包括職員の運営推進会議への参加があるため、市の担当者とも顔見知りの関係が築けている。担当者にまめに連絡をとり、報告、相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに関して、職員はよく定義を理解している。また、他の職員のケアにも気を配っている。ただ、交通量の多い道路に隣接している為、フロア出入り口のみ施錠している。	事業所内の教育委員会を通じ、年に1回身体拘束、虐待についての研修を行っている。マニュアルは毎年全員で見直しをし、身体拘束についての内容を確認している。慣れから、不適切な言葉遣いにならないよう、注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会を通じ、年1回勉強会を行っている。職員同士、話しやすい雰囲気づくりに努め、お互いをチェックできる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	東京大学の市民後見人実習生を受け入れ、共に学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が契約事項の説明を実施し、理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加をお願いし、また、意見箱を設置するなど、ご意見を頂いて施設の運営に反映させている。	家族とは面会時にできるだけ話をするようにしている。利用者とは日頃の会話に加え、月に1回お茶を飲みながら話をする機会を設けている。何気ない発語を記録し、サービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議で話す場を設けている。 全体会議前には、ユニット毎に意見や提案の用紙を配布し、記入していただいている。	管理者は、全体会議の前に、職員にアンケートを実施し、会議に参加出来ない職員からも議題に関する意見や皆に伝えたいこと等を聞いている。職員からの提案は検討し、サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と目標管理シートを実施し、勤務状況を把握し、目標を持って働けるよう支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標管理シートを利用し、個々の能力の把握に努めている。教育委員会より各種研修会や資格の案内を行い参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設と納涼祭(秋祭り)や芋ほりなどの行事にお互いに参加し、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご利用者の自宅や入院先などに伺い、直接、ご利用者から不安な事や、ご要望を伺い、できるだけ安心して入居頂けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に初回のケアプラン作成する際、ご利用者、ご家族の支援の希望を職員同士でよく話し合い、ご要望に沿ったサービスを実現できるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者とご家族の置かれている問題点をよく見極め、最も必要とされるサービスを提案できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や食洗などの家事をご利用者と一緒に行い、家庭で生活しているような雰囲気づくりに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、職員が生活状況報告を作成し送付している。面会時など、職員から話をして、認知症や本人の生活状況をよく認識して頂くように努めている。緊急を要しない受診などは同行頂き、本人の情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末などに年賀状の作成イベントを行い、利用者の希望する方に送付するようにしている。ご家族や友人が面会に来られた時は、居室でゆっくりとお話しができるように環境を整えている。	家族との関係を大切にしており、面会を歓迎し、電話や手紙のやりとりも支援している。家族も参加できる日帰り旅行は好評である。お墓参りや外食等、家族との外出を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月食事レクを行い、利用者様同士で野菜の皮むきなどの作業を共同で行っている。毎日、定期的に体操やレクレーションの時間を設け、なるべく全員の方に参加いただくように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先にお見舞いに伺ったり、移った先の施設に面会に伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員同士でご利用者の会話や表情、ご家族の話など、情報を共有するような雰囲気づくりに努めている。	利用者との日常的な会話の中から、思いの把握に努めることが多いが、表情や行動から考えることもある。利用者の話をよく聞くことを心掛け、家族の力を借りながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにより、利用者の生活歴を職員それぞれに把握するように努めている。利用者様のお話を傾聴することで、必要な情報を把握するよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が利用者の生活リズム、健康状態など把握し、本人に合ったペースで生活頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議や電話連絡より得たご家族の希望は、ケアプラン会議に十分反映するよう努力している。	介護計画は、居室担当者が作成するアセスメント表、利用者、家族の意向を基に、職員が意見を出し合い、作成している。介護計画の見直しは、基本6ヶ月ごとであるが、変化に応じて随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の内容は朝の申し送りなどを通じ、職員間で共有している。申し送りノート、利用者の状態ノートを作成し、閲覧することによって必要な情報を職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	駐車場のスペースを利用しての花火大会や、年に一度の観光バスを用意しての日帰り旅行、フロアスペースを利用した秋祭りなどサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	紙芝居、アニマルセラピーなど地域のボランティアの方に定期的に来設頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携している益子病院と密に連携し、必要な医療サービスを受けられる環境にある。毎月、グリーンセンタークリニックにて定期受診を行っている。	4週に1回、連携するクリニックで受診し、体調管理をしている。専門科の定期通院は基本家族対応であるが、緊急時は職員が対応している。夜間も必要な医療を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションさわやかなの看護師が週に一度来ていただき、必要な助言をもらっている。また24時間電話対応のサービスにより、緊急時にも対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	系列の益子病院と緊密に連携しており、入院中の情報や病状について、医師や看護師、MSWと情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りに関する指針」に関して説明を行い、ご家族の意向を確認している。系列の益子病院の医師、看護師などと連携し、できるだけご利用者、ご家族の意向に沿うよう努めている。	「重度化した場合における看取りへの指針」を作成している。家族、利用者には入居時に、事業所の方針、事業所においてできること、できないことを説明している。医療が必要になった時には、同法人病院と連携できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応手順書を各フロアーに整備し、緊急時に見るだけで必要最低限の行動がとれるようにしている。また教育委員会で定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害委員会を立ち上げ、系列のマッシーランドにおいて勉強会を通じて施設の防災体制整備に努めている。年2回の防災訓練を消防署立会いの下、行っている。	年2回、避難訓練を実施している。災害対策委員会を立ち上げ、マニュアルの作成や研修を実施している。専門家による研修を受け、現在、大規模地震に向けての対策見直しをしているところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の指針を各ユニットに掲示し、教育委員会において接遇の勉強会を定期的に行っている。	個人情報保護の指針を各ユニットに掲示し、書類は、人目につかない場所に保管している。USB使用者には、情報の流出リスクを伝え、管理を徹底している。排泄の声掛け、確認はそっと行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のお話をよく傾聴し、対応するよう、職員に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段より職員の方で、ご利用者の話を傾聴し、生活を観察することによって、一人ひとりのペースに合わせて生活が送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、訪問理容を利用しており、パーマやヘアカラーなど本人の意向に沿って行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や月に1度の食事レクリエーションで、利用者様の希望に基づいてメニューを決定し、職員と一緒に野菜の下ごしらえなど行っている。	希望や能力に合わせ、食事の準備や片付けを一緒に行っている。手作り食事会として、食べたいものを聞き、一緒に調理して食べる機会を作っている。おせち料理、餅つき、流しそうめん等季節感を大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や看護師の指導の下、水分制限や主食制限などを記録管理し、栄養士が栄養のバランスを考えたものを提供している。魚が苦手などある程度、食の好みにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後、口腔ケアの時間を設け、まめに声掛けし行っている。訪問歯科の指導の下、介助が必要な方は職員が介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、定期的にトイレの声掛けを行い、失禁の頻度を減らす努力を続けている。	排泄チェック表を利用し、個々のタイミングを把握している。声掛けが必要な人には、時間をみながら声掛けし、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医、看護師と相談し、排泄表をチェックすることで、ご利用者の状態を把握している。定期的に体操の時間を設けるなどをし、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助職員の配置体制がある為、入浴日は決まっているが、ご利用者の体調や気分を考慮に入れて行っている。入浴の順番などは極力希望に添うようにしている。	入浴は、できるだけ希望に沿った時間帯に入れるようにしている。同性介助を希望する場合には対応している。一緒に歌をうたったり、ゆっくり話ができる時間であり、利用者の楽しみな時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活リズムを考慮し、体調や気候などにより、日中のベッド臥床や離床の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師の指示のもと、日々の症状などをよく観察しあっている。服薬表を付けることにより、飲み忘れなど間違いが起こらないように管理している。毎食ご利用者に薬の日付を確認して服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い表を作成し、お手伝いの当番を決めている。貼り絵などの製作レクを行い、張り合いを持って頂くよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩表を作成し、なるべく多くのご利用者に散歩に出ただけのように努力している。不定期だが個別レクを企画し、職員と1対1で行きたい所へ出掛けられる機会を設けるよう努めている。	近所の散歩によく出かけている。近所のグループホームとの交流があり、秋にはその事業所の招待で芋掘りを楽しんだ。家族も参加できる日帰り旅行を毎年行っている。実施内容は家族にも相談し、今年は笠間に出掛け、お皿作りの体験をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には紛失防止の為、事務所で預かっているが、本人の強い希望と家族の了解があれば数千円程度を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば、施設の電話を使用して常識の範囲でお話し頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	貼り絵や、制作レクなどでフロアの飾りつけをご利用者と職員で協力して行っている。毎日午前中にフロアの清掃を行っている。	居間の壁面には、利用者の作品や写真をたくさん掲示し、利用者が季節を感じたり、生活の様子を思い出せるよう工夫している。椅子、テーブルの配置は、利用者同士ができるだけ気分良く過ごせるよう時々変えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の相性など考慮し、食事の席などを工夫している。ご利用者のコミュニケーションのため、職員が間に入るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者、ご家族とよくお話して、なるべくご自宅あった、こたつやたんすなど持ち込んで頂いている。本人の希望があれば模様替えを行う。	利用者はご位牌等大事なものや使い慣れた引出し、こたつ、テレビ等を持ち込みして生活している。クローゼットがあるため、室内の家具は少なくすみ、床に置かれたものが少ない。安全に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の生活動線を考え、転倒防止に配慮しつつ、ご利用者の自立した生活が送れるように、配置し工夫をしている。時々ユニット会議にて模様替えを行っている。		